

エイズの悲劇

研究開発部
小谷 みどり

<エイズ・テンプル>

この1年間を振り返り、筆者にとって最も印象深く、衝撃的だったのは、タイのWat Phra Baht Nam Phu(プラバートナンプ寺)を訪れたことだった。バンコクから列車で3時間ほどのロブプリ県郊外にあるこの寺院は、通称、エイズ・テンプルと呼ばれている。エイズ患者をみとるホスピス寺院で、広大な敷地のなかには住宅から病棟、作業所まであり、HIV感染者から重症患者まで、数百人が暮らしている。病棟では、毎日何人もの患者が亡くなるため、敷地内にある火葬場は常にフル稼働しており、すぐに遺体を運べるよう、ひつぎは瀕死の患者のそばに置かれている。

タイには現在、100万人のHIV感染者がいる。約55人に1人の割合だが、10年後には人口の1割まで感染者が増加すると、タイ政府は予測している。

<世界的な問題>

タイに限らず、世界的にみてもHIV感染は深刻な問題だ。今年6月に国連エイズ特別総会が国連本部で開催されたが、特定の疾患についてテーマ設定されたのは、特別総会26回目にして初めてだというから、世界的視野でエイズ問題に早急に取り組む時期にきているのだ。

UNAIDS(国連合同エイズ計画)の推計によると、昨年末時点でHIV感染者やエイズ患者は世界に3610万人もいる(図表1)。エイズで亡くなった人は2000年の1年間で300万人。母子感染や幼児売春などによる子供への影響も大きく、2000年に新た

に感染した15歳以下の子供は60万人にも達したとされている。親をエイズで亡くした孤児のケアや教育問題も重要な課題だ。

<教育の必要性>

一方、日本でもHIV感染者やエイズ患者は年々、増加の一途をたどっている。今後、国内のエイズ患者は増加すると考える人は81.5%にも上っており、その理由として「日本人の性行動が開放的になっている」、「海外との交流が増える」ことを挙げる人が多い(図表2)。また、エイズ感染に対する不安を感じている人は世代が若くなるにつれ多くなっており、10代後半では37.4%が「不安がある」としている(図表3)。

しかしながら、エイズ感染の不安が高い20代までの若者ほど、エイズ感染の感染経路について周知していない傾向が同調査でも明らかになっており、若者への情報提供や性教育の更なる徹底が急務である。我々一人一人に感染予防についての正しい知識がなければ、エイズ患者や感染者、その家族も、いわれなき偏見を受け、地域社会で共生できなくなってしまう。

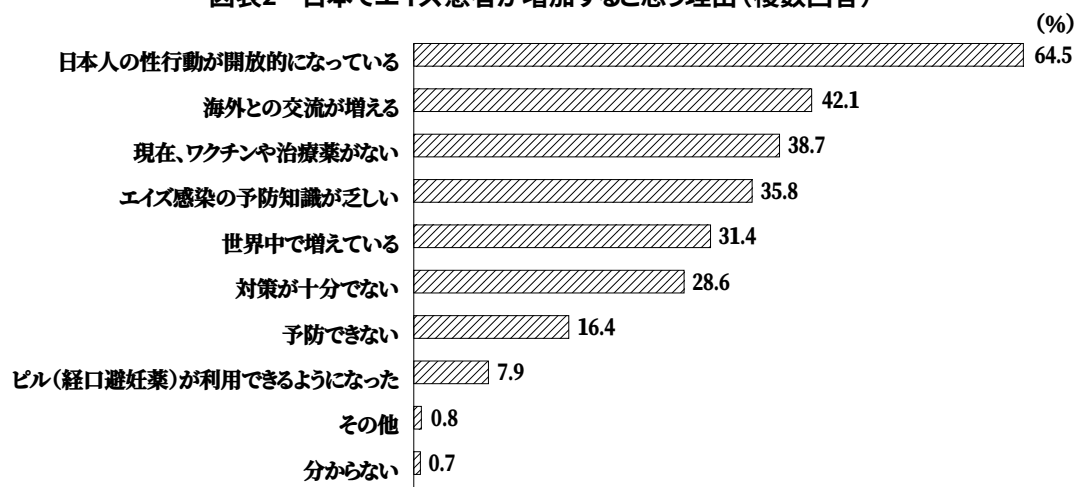
実際、タイのエイズ・テンプルでは、家族からも見捨てられ、夜中に寺院の前に置き去りにされる感染者も少なくない。枯れ木のようにやせ、発疹で黒くこげたようになった体をベッドに横たえ、死を待つだけの重症患者たちを目の当たりにし、日本人としても、他国ごとには到底思えなかった。「なんとなく不安ではあるが、自分は、まあ大丈夫」という意識の日本の若者には特に、エイズが患者や家族、社会に引き起こすさまざまな悲劇についていま一度、考えてもらいたいものだ。

図表1 世界のHIV・エイズの状況予測(2000年)

	2000年に新たに HIVに感染した人	2000年末のHIV感染者・ エイズ患者数	2000年にエイズで死亡 した人
大人	470万人	3470万人	250万人
うち女性	(220万人)	(1640万人)	(130万人)
15歳以下の子供	60万人	140万人	50万人
合計	530万人	3610万人	300万人

資料:UNAIDS 'AIDSE pidemicUpdate' 2000年12月

図表2 日本でエイズ患者が増加すると思う理由(複数回答)



注:今後、我が国でもエイズ患者が「非常に増加する」、「やや増加する」と答えた者(n=2839)のみに尋ねている。

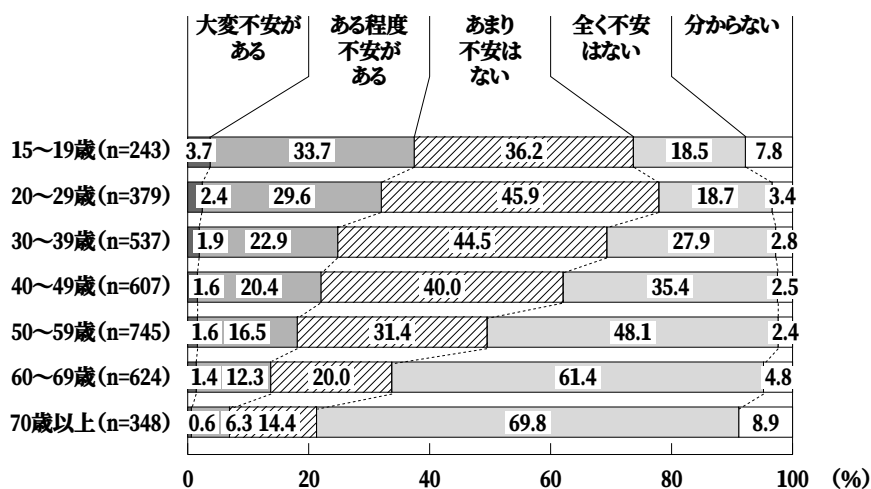
資料:内閣府政府広報室「エイズに関する世論調査」2001年8月

調査時期:2000年12月

調査対象:全国15歳以上の者3483人(有効回答)

LDI WATCHING

図表3 エイズ感染に対する不安感



資料:図表2に同じ